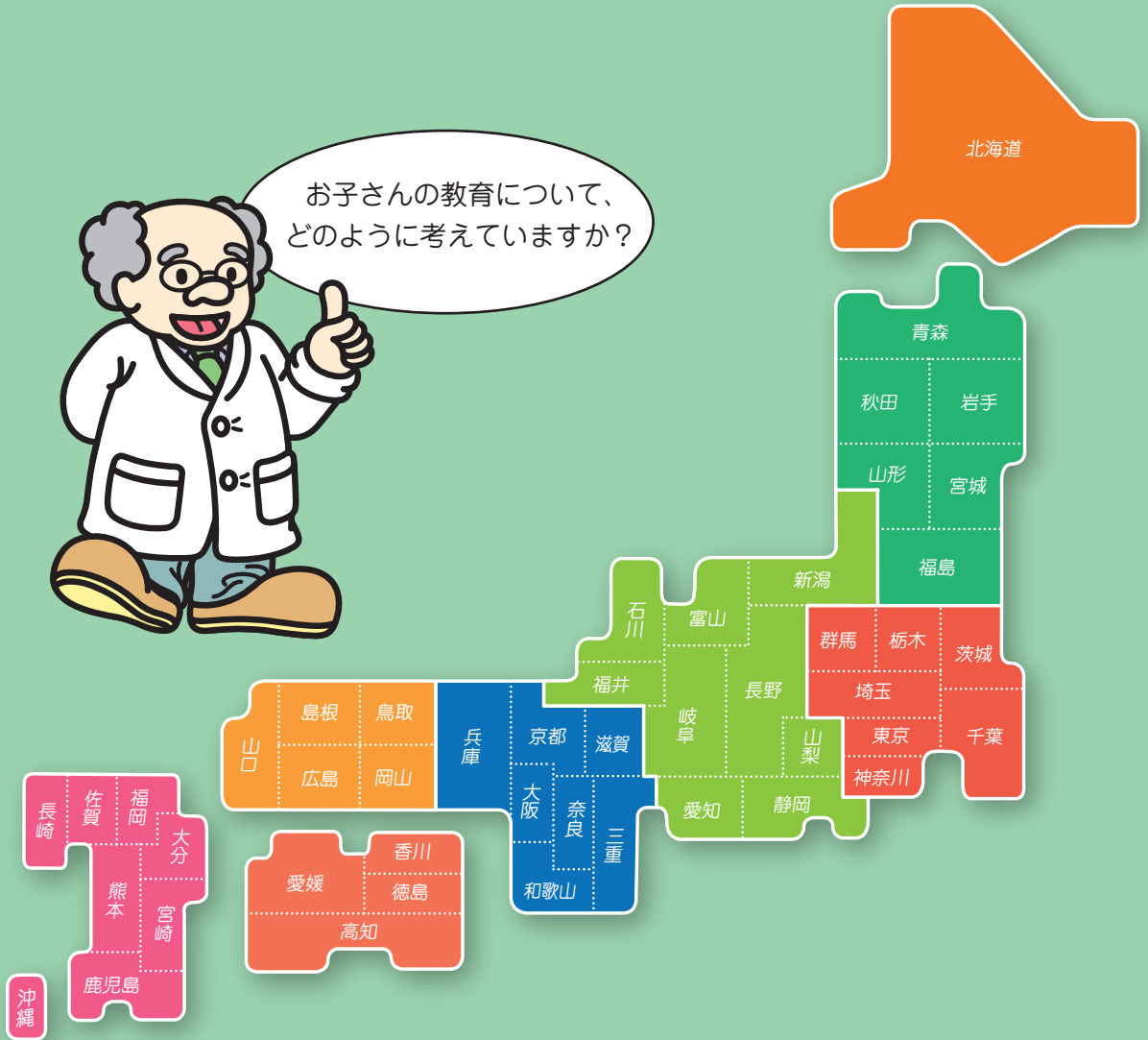


小・中学生のお子さんとともに帰国されるご家族へ

帰国に向けて



公益財団法人 海外子女教育振興財団

〈帰国に向けて〉 滞在中の家庭での教育方針について

いずれは帰国することを考えると、帰国後の学習が気にかかりますが、どのような学校に通う場合でも、現地での学校の勉強に集中し、学校生活を順調に過ごせることが第一です。また、友達との関わりも大切にし、充実した海外生活が、お子さんの成長にとってプラスに働きます。

日本人学校に通う場合、学校生活だけでなく現地の文化・自然に触れ、地域のスポーツ活動や習い事などを通して現地交流を行い、海外だからこぞできる体験も大切にしましょう。

現地校やインターナショナルスクールに通う場合、外国語（授業言語）の習得に時間がかかることを理解し、お子さんが学校に馴染んでいけるようにご家庭でのサポートが重要です。

海外では、どうしても日本語に触れる機会が減ります。学校の勉強を中心に据えることは大切ですが、特に母語の形成時期（幼児期～低学年）のお子さんの場合は母語の保持伸長に関して家庭で十分に配慮してください。それ以上のお子さんの場合もご家庭で日本語の読み書き（読書や手紙を書くなど）や通信教育や補習授業校などを活用し、日本語の学習を継続することが帰国後の適応につながります。

異なる国民性、異なる常識、異なる法律など、違いが多い海外での生活はご家族の皆さんにとって大きな苦勞を伴いますが、お子さんが、異文化を理解し、国際感覚を身に付けるよい機会です。ご家族の海外生活を意義深いものとするために、目先のことにとらわれることなく幅広い視野を持って、教育方針を立てることをおすすめいたします。

公益財団法人 海外子女教育振興財団（JOES）では出国から帰国までの教育的なサポートを行っています。ご不安なことがございましたら是非 JOES のサービスをご利用ください。教育相談や他の事業については本パンフレット裏表紙のJOES事業のご案内やJOESウェブサイト（<http://www.joes.or.jp>）をご参照ください。

Q1 帰国が決まりました。特に注意すべき点がありますか？

A1 帰国が決まると、海外で築き上げてきた生活から帰国に向けての準備を始めなければならず、親も含めて家族全員が複雑な心境になるでしょう。親が帰国に対して消極的な姿勢でいると、それはお子さんにも伝わります。帰国先の地域の情報や生活情報を事前に収集してから、家族で話し合いの場を設け、帰国に向けて前向きに取り組んでいきましょう。また、帰国後の学校生活・学校選択についても話し合い、お子さんたちが少しずつ日本の学校に編入学するイメージを持つようにしてあげましょう。

～ワンポイントアドバイス～



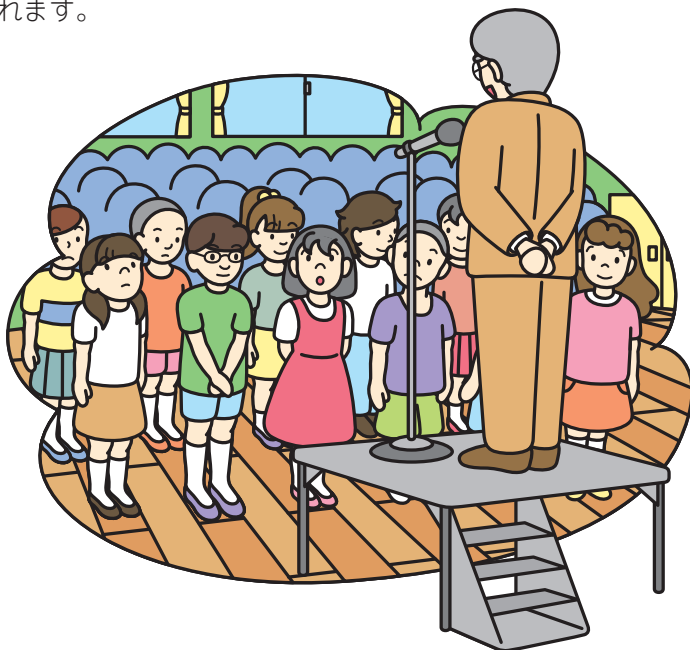
日本での義務教育期間中に帰国した場合、住居が定まると学区内の公立小・中学校の年齢相当学年に編入学することができます。

義務教育期間後に帰国する場合は現地で何年生を修了したかによって、編入学する学年が決まりますので、それぞれの学校へ事前に問い合わせをしてください。

Q2 「帰国生受け入れ校」と呼ばれる学校は、一般の学校と何が違うのでしょうか？

A2 入学・編入学試験の方法や入学後の指導において、“帰国生に対して特別な配慮をする学校”のことを「帰国生受け入れ校」と呼んでいます。「帰国生受け入れ校」での指導の特徴には、大きく分けて次の2点があげられます。

- ①【適応指導】日本語をはじめ、日本の勉強で遅れている部分を補う指導。具体的には、個別の補習、教科ごとの習熟度別指導を行う。
- ②【特性伸長指導】外国語力など、海外で身に付けてきた特性を伸ばす指導。学校によっては英語力だけに着目している学校もあるが、レポートや個別研究などが多い海外での授業で培われた問題発見・解決能力、論理的思考力や自己表現力の伸長などに力点をおく。



「帰国生受け入れ校」にも、国立・公立・私立の学校があります。公立小・中学校の帰国生受け入れ体制は地域によってさまざまですが、帰国生が多い地域では、これまでの経験と実績から独自の施策を行っています。なかには、専任の先生が個別指導を行ったり、英語力保持教室を開いたりしている学校もあります。公立高校では、特定の「帰国生徒受け入れ校」を指定している場合もありますので、詳細は事前に各都道府県の教育委員会に問い合わせる必要があります。

また、一部の国立大学附属校では、教科の学習にかなりの遅れや未学習部分がある帰国児童生徒を対象に、学力の回復と学校生活への適応を目的に普通学級とは異なる「帰国児童生徒教育学級」を設けていたり、一般の学級に「帰国生を混入させて個々の子どもの状況に応じた指導」を行ったりしています。

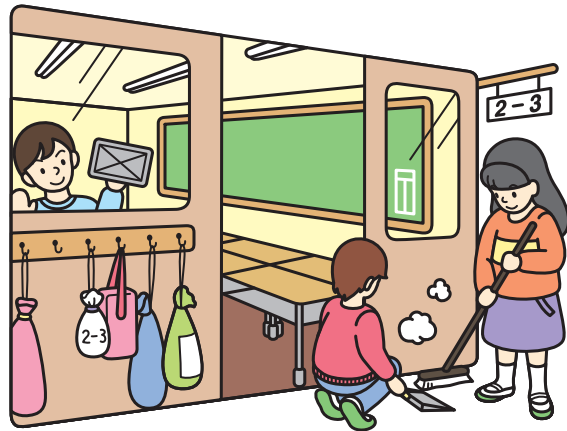
私立の「帰国生受け入れ校」は多くありますが、首都圏・近畿圏など、帰国生が多い地域に集中しています。また、選抜方法、入学後の受け入れ体制は学校によって千差万別です。日本語のフォローをしたり、日本の教科学習での遅れや未学習部分を補ったり、外国語を保持伸長するシステムを整えたりしている学校もあれば、帰国生への配慮は入試の時点だけで、受け入れ後は特別な指導は行っていない学校もあります。「どのような意図で帰国生を受け入れているのか」「帰国生に何を期待しているのか」等について、学校のウェブサイト、学校説明会、学校見学などさまざまな方法で、情報収集に努めることが大切です。

※ JOES では、帰国生受け入れ校の情報を掲載した「帰国子女のための学校便覧」を毎年発行しています。詳しくは裏表紙をご参照ください。また JOES ウェブサイトでも受け入れ校一覧を掲載し、各校のウェブサイトにもリンクしています。

Q3 帰国後の学校選びで迷っています。何にポイントをおいて学校を選択すればよいのでしょうか？

A3 学校選択の際、大切なことは、お子さんと学校の相性をしっかり見極めてミスマッチを避けることです。学校を調べる際、以下のポイントを抑えておくとよいでしょう。

学校文化（校風）
教育方針
教育課程の特色
選考方法
帰国生の在籍者数
入学後の受け入れ体制
部活動や学校行事
卒業生の進路
施設設備
通学時間 など



お子さんと学校の相性をみるうえで、一番効果的なのは**実際にお子さんと一緒に学校を訪ねてみる**ことです。授業や部活動の様子を見学できる場合もありますし、先生の話や聞くことで帰国生に対する学校の姿勢をよみとることができます。また、登下校中の児童生徒の姿を眺めることで「日常」をうかがい知ることもできます。

日本人学校に通っている場合や、補習授業校、通信教育等で学び、日本国内の子どもたちと同様に日本の学習内容を理解できる場合には、帰国生のための特別な入試だけではなく、一般入試という選択肢も考えられます。お子さんにとって帰国後、どのような教育環境がまっているのかをよく考えて、学校選択することをお勧めします。

Q4 「帰国生入試」とは何ですか？

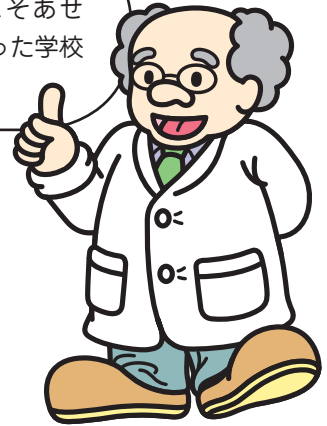
A4 「帰国生入試」とは、一般入試とは別に各学校や教育委員会が帰国生としての資格・条件を設定して行う入学試験のことです。試験の内容・方法は学校によってさまざまです。帰国生としての資格・条件は、保護者の海外勤務に伴って、滞在した年数と帰国後の年数で出願資格を決めている場合が多いのですが、学校によってまちまちですので募集要項での確認が必要です。また、現地校等と日本人学校で資格・条件や試験などを区別している学校もあります。

中学校の「帰国生入試」では、国語・算数を主とした筆記試験と面接（一般に保護者同伴）を行い、ほかにこれまで通学した学校からの成績報告書等を検討して、総合的な判定で合否が決まります。学校によっては社会・理科を含めた4教科の筆記試験や作文などを加えている場合もあります。また、外国語を課している場合は英語が主となりますが、滞在地での使用言語の試験を加えている学校もあります。

高校の「帰国生入試」では、学科試験で国語・数学・英語の3教科に絞っていることが多いのですが、社会や理科を加えた5教科を課す場合もあります。また採点や合否判定において「海外生活の事情を考慮する」などとしている学校もあります。なかには試験問題にふりがなをふったり、試験時間を延長したりするなど「弾力的な扱い」を行っている学校もあります。また、英語1教科のみ、もしくは英語と国語または英語と数学の2教科の学科試験を行う学校もあります。さらに、学科試験ではなく書類や面接、作文で合否を判定する方法も広く行われています。

「帰国生入試」の時期は、一般入試の時期（1～2月頃が多い）よりも早く行われる場合が多く、私立校の中には、11～12月に海外で帰国生入試を実施する学校もあります。国内で行われる「帰国生入試」の時期にはかなりの開きがあります。したがって出願の時期や入試日について、早めに調べておく必要があります。

これから数年間、毎日通う学校だからこそせらず、自分にあった学校を探そう！



～ワンポイントアドバイス～



帰国生入試では偏差値はあまり意味をもちません。理由として以下の2点があげられます。

- ①特定の学校に大人数が受験することがほとんどなく、統計的に意味のある数がとまらない
- ②ペーパー入試のほかに面接や作文、海外での学習歴などが加味されることが多く、数値化が難しい

Q5 帰国後は帰国生入試の受験を考えていますが、準備すること、特に気をつけることはありますか？

A5 帰国が決まっても、最後まで現地での学校の勉強の手を抜かないことが大切です。日本人学校でも現地校等でも同じですが、受験勉強だけにかたよって、現地での学校の成績が下がると、帰国生入試の場合は不利になります。

受験の際、必要になる書類は学校によって異なるので、入学を希望している学校の募集要項を見て早めに準備しましょう。日本人学校の場合は調査書、現地校等の場合は在学・成績証明書が必須ですが、推薦入試などを受験する際には推薦書も必要になることもあります。出願期間に備えて、余裕をもって在籍校側に必要部数をお願いしましょう。その他、通知表、各種賞状や保護者勤務先からの海外在勤証明書が提出書類に含まれることも多くあります。

海外滞在中に思い出に残ったことなどのメモを作っておくと、自己紹介、作文、面接試験などに応用ができ、役に立ちます。日頃から書類やメモ等の整理・保存をするよう心がけましょう。

Q6 中学・高校受験をする場合、帰国の時期について注意する点があれば教えてください。

A6 中学受験では義務教育期間での帰国ですので、志望する学校の試験日程に合わせて帰国すればよいのですが、**高校受験では海外の学校教育での9年の課程を修了したか、その年の3月末までに上記課程を修了見込みでなければ出願資格が与えられないので注意が必要です。**

海外の現地校・インターナショナルスクールでは日本の学校とは入学基準日や学校年度の開始月が異なる上、言語力の面などから編入時に学年を下げることもあります。高校出願の時点で9年生を修了していれば、受験の日程に合わせて帰国できますが、修了していない場合、日本の中学に在学し「卒業見込み」をとるために事前に帰国する必要があります。この場合、受験に必要な書類の作成を考慮すると、少なくとも日本の中学3年生の12月初旬までの編入学が望ましいでしょう。

※9年生を未修了の場合でも高校受験資格を得るには「中学卒業程度認定試験」（例年10月実施）を受験する方法もあります。詳細は文部科学省もしくは帰国予定の都道府県教育委員会にお問い合わせください。

日本人学校は国内の中学校に準じた教育課程で学習するので、日本人学校の中学部を卒業見込みであれば直接国内の高校受験が可能です。ただし、公立の全日制高校では入学日までに該当都道府県への転居が確実であることが応募資格の一つになることも多いので注意が必要です。応募資格の審査を出願書類提出前に実施することもありますので、該当の教育委員会へ早めにお問い合わせください。

また、現地校等で9年生を6月に修了してから帰国する場合、受入校がどの時期に編入学を行っているかが重要となります。随時受入の学校は帰国する時期に応じて編入学試験などの対応をしておりますが、例えば9月（学期初め）の受入れの場合、7月上旬～中旬にかけて編入学試験を実施し9月からの編入学など時期が決まっています。また、欠員が発生した場合のみ実施する学校もありますので、事前に各学校へお問い合わせください。

義務教育期間を過ぎてからの帰国は気を付けなければいけないね。



Q7 帰国しました。学校に行くにはどのような手続きをすればよいでしょうか？

A7 原則として、お住まいの管轄の市区町村役所で帰国後2週間以内に住民登録を行います。公立の小・中学校に入学・編入学を希望している場合、市区町村のルールによって通う学校が決まり、就学手続きを行います。手続き後、該当する学校に訪問し校長に会い、学級担任などが決まり手続きが完了します。私立・国立の学校を希望している場合や高等学校への入学・編入学の場合は選抜試験に合格する必要があります（試験内容は学校によって異なります）。帰国後、あまり時間をあけることなく、日本の学校に通うことが望ましいので、まずは通学希望の学校や地域の教育委員会へお問い合わせください。

Q8 日本の学校に入るに当たって、子どもにあらかじめアドバイスをしていただいた方がいいことなどありますか？

A8 海外の学校から日本の学校に入る場合、親が思っている以上にお子さんは学習内容や学校生活にギャップや戸惑いを感じることがあります。海外の学校で身に付けたよい点を自覚し、経験してきた異文化体験を、帰国後の学校生活でも活かしていけるよう、お子さんをサポートしてあげてください。



日本人学校で学んできた場合、日本国内の学校と比べて一見、学習内容や学校生活に大きな差はないように思えますが、学校全体の規模（児童生徒数等）、随時クラスメートが転校し編入学してくる環境、スクールバスでの通学、現地語学習や現地交流など、海外特有の学習環境で学んできています。そういった、日本人学校と日本の学校の環境の違いについて、帰国する前にお子さんと話し合っておくと、よりスムーズに日本の学校文化に入っていくことができるでしょう。

現地校等で学んできた場合、言語も学校生活も全く異なる環境で過ごしてきたわけですから、戸惑いが大きいことは当然のことです。日本の学校では、授業の進め方、成績のつけ方が現地校等とは違ったり、掃除当番や給食などがあったりします。また、日本語力の不足をどのように補い、習得した外国語をさらにどう伸ばすかという問題も生じてきます。これらの問題には「**長所を伸ばすことで自信を持たせる**」方法が有効です。外国語力と異文化体験は長所です。外国語のレベルをさらに上げて自信を持たせれば、各教科で補わなければならない学習があったとしても、明るい気持ちで取り組んでいけるでしょう。また、身に付けた外国語力を発揮する場を与えてあげると、慣れない日本の学校環境の中での息抜きとなるでしょう。

クラスメートが当たり前のようにできることで、お子さんだけができないことがあっても悲観する必要はありません。ありのままの現状を受け入れ、謙虚に、そして自信を持って取り組んでいけば良い結果が出ます。海外で先生や友達との関係を築き上げていった時のことを思い出し、自分を理解してもらおうと同時に、相手を理解する努力が必要です。

※ JOES では「帰国子女のための外国語保持教室」を開催しています。詳しくは裏表紙をご参照ください。

帰国生であることに誇りを持ち、海外で経験してきたことを活かしていこう！



財団事業と出版等のご案内

教育相談（東京・名古屋・大阪・その他都市）

現地での学校選択、手続きや教育制度、高学年のお子さんの帯同、帰国後の受け入れなど、専門の教育相談員が対応いたします。面談・オンライン相談・電話は予約が必要です。ウェブサイトからのメール相談は随時受け付けています。

海外子女のための通信教育

海外子女専用の通信教育。現地校等で学んでいる小・中学生の学習状況を十分に配慮して作られた教材で、帰国後、日本の学校にスムーズに適応することを目的とした「小・中学生コース」は、海外で使用する教科書を使って学習する「国語・算数／数学コース」とインターネットで学習する「理科・社会コース」を受講可能です。また、読み聞かせを通して、母語である日本語に楽しく触れてもらうために、絵本の定期配本を行う「幼児コース」を実施しています。

帰国子女のための外国語保持教室（英語・フランス語）

（首都圏・中部・関西・Web）※フランス語は首都圏のみ

海外で身につけた語学力を保持していくことを目的に小学2年生から高校3年生までを対象に開設されました。学齢相当の総合的語学力維持を目標とし、読み・書き能力の強化、およびコミュニケーション力の強化を目的に構成されています。

帰国子女のための学校便覧（毎年10月発行）

全国の小学校から大学までの帰国生受入校と教育委員会の情報を掲載した入学・編入学ガイドブック。各学校の入学・編入学資格、条件や入試日程、選考方法、受け入れ後の指導内容の概要を紹介しています。（本体価格：3,333円＋税 会員割引価格：本体価格2,870円＋税）

新・海外子女教育マニュアル

JOES 教育相談室によって、出国の準備から帰国後の受け入れについてお子さんの教育に関するアドバイスを総合的にまとめています。（本体価格：2,667円＋税 会員割引価格：本体価格2,286円＋税）

※2017年6月改訂版発行。

公益財団法人 海外子女教育振興財団

2019年3月発行

東京本部

〒105-0002
東京都港区愛宕1-3-4
愛宕東洋ビル6階
TEL 03-4330-1349
FAX 03-4330-1355
E-mail service@joes.or.jp

関西分室

〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田3-4-5
毎日新聞ビル3階
TEL 06-6344-4318
FAX 06-6344-4328
E-mail kansai@joes.or.jp

ホームページ <https://www.joes.or.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/joes.kaigaishijo> >>>>

